

マス類の県内需給状況調査

とりまとめ：三浦 正之

本調査は全国養鱒技術協議会提出資料として、県内の養鱒関係者に種苗生産状況を聞き取り調査し、取りまとめたものである。調査内容は、種卵生産量(普通魚・バイテク魚)・種苗生産量(普通魚・バイテク魚)・河川湖沼への放流用種苗数・埋没放流出荷卵数・普通魚の種卵種苗価格・バイテク魚の種卵種苗価格である。このうち、年間種卵生産量、年間種苗生産量、河川・湖沼放流用種苗出荷量、埋没放流用出荷卵数を以下に示した。

1 今回調査した養鱒経営体数

今回調査した経営体は32経営体であった。

2 県内の生産量

平成26年度の年間種卵生産量(表1)、年間普通種苗生産量(表2)、河川・湖沼放流用種苗出荷量(表3)、埋没放流用出荷卵数(表4)は次の表に示すとおりであった。

表1 年間種卵生産量 単位(万粒)

魚種名	普通卵				バイテク卵		
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	計	全雌2倍体	全雌3倍体
ニジマス	3	676	556	472	1,707		73
ヤマメ		1	30	101.1	132.1		
イワナ	15			265	280		
アマゴ				103.7	103.7		
ヒメマス			20.5		20.5		
ブラウントラウト	2			6.9	8.9		
カワマス				4.7	4.7		
アメマス				3.5	3.5		
スチールヘッド				3	3		
サクラマス			9		9		
オショロコマ				1	1		
カットスロート				1.5	1.5		

表2 年間普通種苗生産量 単位(万尾)

魚種名	生産尾数(2g換算)
ニジマス	889.5
ヤマメ	149
イワナ	79.1
アマゴ	57.3
ヒメマス	33.22
ブラウントラウト	3.45
カワマス	3
アメマス	0.5
スチールヘッド	1.5
サクラマス	4
オショロコマ	0.5
カットスロート	3

表3 河川・湖沼放流用種苗出荷数 単位(万尾)

魚種名	生産尾数(2g換算)
ニジマス	11.3
ヤマメ	23.1
イワナ	20.7
アマゴ	41.3
ヒメマス	34.2
ブラウントラウト	0.1

表4 埋没放流用出荷卵数 単位(万粒)

魚種名	年間放流数
ヤマメ	3.3
イワナ	19.3

3 魚種別生産経営体数

魚種別養殖経営体数と種苗生産経営体数は表5に示すとおりであった。

表5 魚種別養殖経営体数と種卵生産経営体数

魚種名	養殖経営体数	種卵生産経営体数 (%)
ニジマス	17	8(47.1)
ヤマメ	15	9(60.0)
イワナ	14	9(64.3)
アマゴ	8	5(62.5)
ヒメマス	5	2(40.0)
ブラウントラウト	4	2(50.0)
サクラマス	1	1(100.0)
カワマス	1	1(100.0)
アメマス	1	1(100.0)
スチールヘッド	1	1(100.0)
オショロコマ	1	1(100.0)
カットスロート	1	1(100.0)
イトウ	2	0(0.0)

4 種卵生産量と種苗生産量の経年変化

(ニジマス)

平成26年の種卵生産量は前年比362万粒(26.9%)増の1,707万粒、種苗生産量は前年比97.1万尾(9.8%)減の889.5万尾であった。

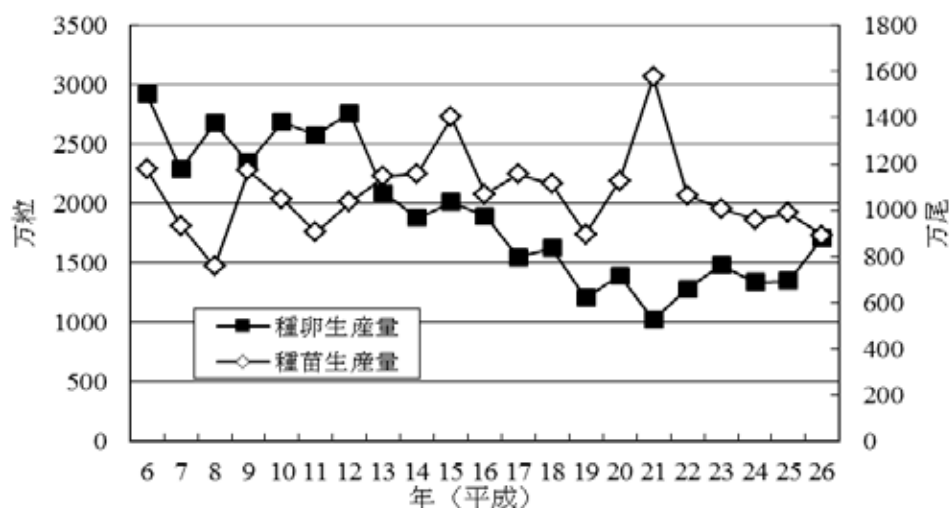


図1 ニジマスの種卵・種苗生産量の経年変化

(ヤマメ)

平成26年の種卵生産量は前年比23.2万粒(14.9%)減の132.1万粒、種苗生産量は前年比15万尾(9.1%)減の149万尾であった。

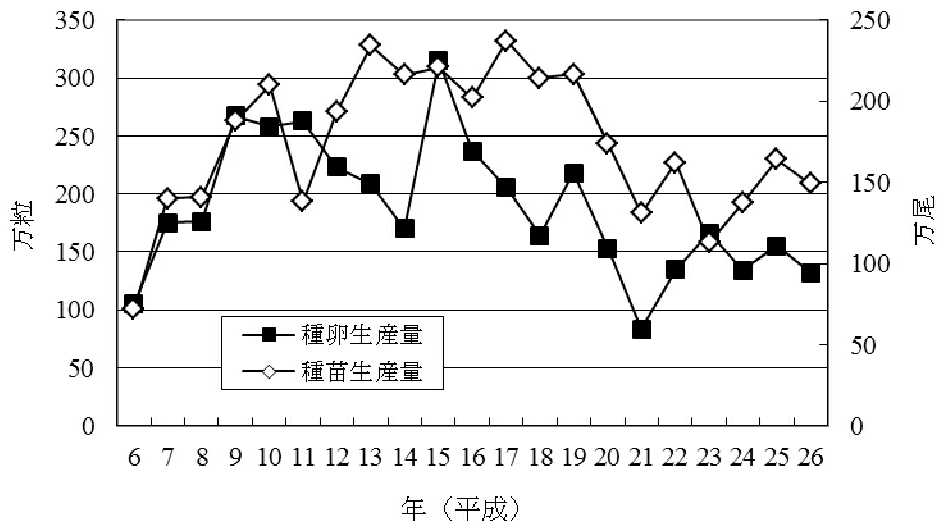


図2 ヤマメの種卵・種苗生産量の経年変化

(アマゴ)

平成26年の種卵生産量は前年比20.6万粒(16.6%)減の103.7万粒、種苗生産量は前年比40.8万尾(41.6%)減の57.3万尾であった。

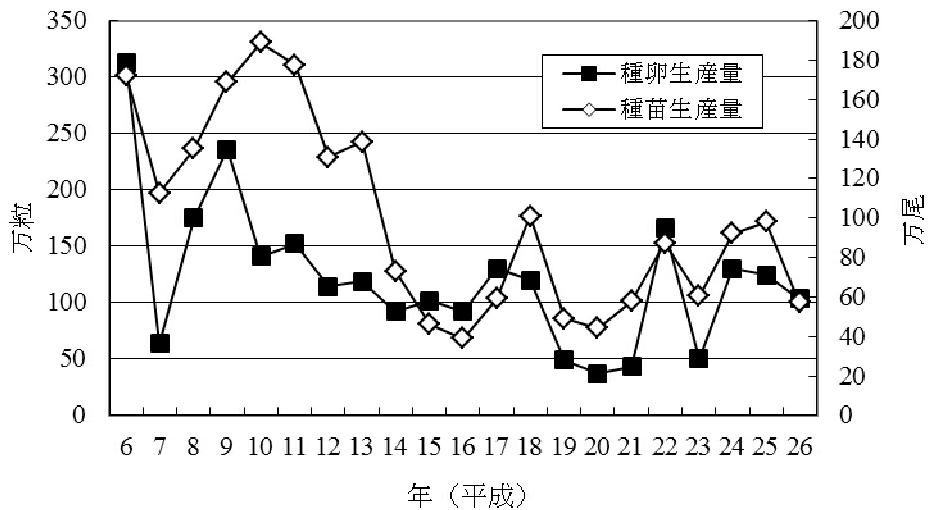


図3 アマゴの種卵・種苗生産量の経年変化

(イワナ)

平成 26 年の種卵生産量は前年比 22 万粒（7.3%）減の 280 万粒，種苗生産量は前年比 53.9 万尾（40.5%）減の 79.1 万尾であった。

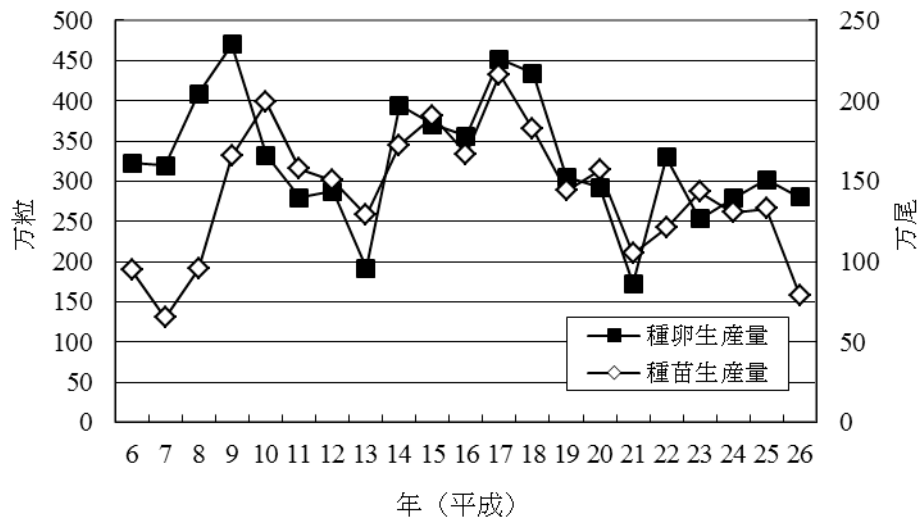


図4 イワナの種卵・種苗生産量の経年変化